

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	はじめのいっぽ		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 1日		2026年 3月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14家族	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2026年 3月 1日		2026年 3月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 6日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所独自の療育プログラム。 (重度・最重度主体のため、毎日の利用を基本とし、常同行動やこだわりの緩和・やって良いこと悪いことを覚える・基本動作の習得・できることを増やすを目指し、小グループ集団活動を中心としたいろいろなプログラムを提供していく。	保護者や学校関係者にはいつでもひびの療育を見ていただき、一緒に参加してもらうことを推奨している。(アポなしで突然来てもらって構いません)	ケース会議や事例研究等の機会を充実にしていきたい。
2	広い室内・園庭を使用し、道具を使って身体を動かす(動かしてもらおうのではなく自分から身体を動かす)を主としたのびのびとした活動。 室内ではパーティションで区切って活動もできる。	手先・集中・注視を目的とした活動における教材の検討及び製作。当事業所の特性にあった集団活動や作業の内容検討。	職員がかたまらないよう、また、周りの職員の動きを見て各職員一人一人が動けるよう、常に安全第一を心がけ、注意喚起している。
3	職員の人数は多いが、チームワークがよく、常に療育内容や子供たちの話題で溢れ、いつでも話し合える環境にある。	子供たちの特性・目的ごとにグループを分け、1グループ見dび2~4名に2名の職員配置を心がけている。 毎日のミーティングにたっぷり時間をかけて、予定のみでなく、療育内容の検討も行い、その都度変更も行い、職員全員で共有している。(職員みんなが意見を言える雰囲気がある)	職員一人ひとりが高い意識を持ち、気づいたこと・疑問なこと・危険だったこと等はすぐに声に出すようにしている。 (その後ヒヤリハット記入)

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流。	地域性や児童の特性上、難しさを感じる。	地域のこどもたちとは、良好な関係が築けているため、この関係を維持していきたい。
2	保護者・兄弟参加型の行事は行えていない。祝日や日曜日は開所していないため、難しい面もある。	職員の勤務体制。 現在はローテーションが組めない。	行事は行えないが、祝日日曜日等、卒業生・兄弟・利用児・その家族等が自由に交流したり、遊べる事業所開放日の検討をしている。 (令和7年度に何度か試験的に試みている。)
3	療育上の特性で毎日継続しての利用が基本のため、契約できる人数が少ない。 双子・兄弟での利用が多いが、断ることはしていない。	預かり目的ではないため、その主旨の説明での理解が難しい。	現状維持で行きたい。